

# 2011年度 第5回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

- 開催日時：2012年1月10日（火） 午後6時30分～7時45分
- 開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室
- 出席委員：五十嵐強、伊藤隆志、内田日出子、小野田恵、佐野美野里、  
田中紀子、野口しほり、山内淑子<以上8名、敬称略、あいうえお順>
- 欠席委員：青崎公博、稲葉孝之<以上2名、敬称略>
- 事務局：丸木 敦（地域福祉課長）、長山清美（コーディネーター）、篠原保之（係長）

資料の確認を行い、議事に入る。

委員長：今年もよろしくお願ひします。今年度から運営委員会の回数を増やし、活発議論ができていふと思う。課題解決のために役立っているのではないか。ボランティアが活動しやすい環境を整えるため、ボランティア・市民活動センターのしくみなどについても検討してきた。状況は良い方向に向かっていると思う。今後も楽しく活発な議論をしていきたい。では、報告事項からすすめていただきたい。

## 1. 報 告 事 項

### (1).西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

事務局：月次報告：12月4日(日)軒下ふれあいバザーについて。天候にも恵まれ、盛況に終わる。12月9日(金)区市町村ボランティア・市民活動センター運営委員会委員及びセンター長拡大会議について。年に1度運営委員の方も一緒に参加していただく会議。職員が参加できなかったが、運営委員1名にご参加いただいた。後ほど報告をお願いしている。12月10日(土)西東京市社会福祉協議会設立10周年記念式典。3月の東日本大震災の影響で、開催を延期していたもの。

コーディネート報告：昨年秋から親御さんを対象にした活動時のお子さん相手の活動が継続して多くなっている。年末年始は、施設でのお楽しみ会、新年会での特技披露の依頼が多くなっている。ボランティア保険は、冬休みに行なう支援活動のため、保険加入者が増えている。相談受付について。学校での支援事業、手話サークルのご相談などがあつた。

事業予定：2月3日以降に3つ講座を予定している。ボランティア懇談会は、ボランティアの組織的な活動や、ボランティア同士が自由に語れる場(サロン)について話し合う予定。ボランティア団体交流会は、傾聴ボランティアサークルを対象に実施する。前半は精神障がい理解について講師を招いて学習会を行う。後半は西東京市社会福祉協議会で運営している地域活動拠点「ふれまちルーム」における傾聴活動について紹介をおこない、ボランティア団体間の連携や協力体制について話し合い、活動を広げることおすすめしていきたい。ボランティアはじめて講座について。半日講座を行う。参加者に自分の思いもできるだけ話してもらふ予定。運営委員2名にアドバイザーと

して参加していただく予定。ご紹介できる活動について具体的にお話しする。講座後に様々な活動について、ご相談いただけるように案内したい。4月15日(日)にボランティアのつどい「ボラフェス2012～つながろう！ひろげよう！～」を行なう予定。田無小学校の使用許可もいただき準備を進めている。

委員長：意見、質問をお願いしたい。

委員長：ボランティアのつどいについて。一昨年は会場に行ったが、一昨年と同じように実施するのか。

事務局：一昨年は、会場を校庭と体育館の両方を使用し同時進行で開催したが、別会場で行われているのか分かりづらかった。今年は、校庭のみでの実施を予定している。雨の場合は、規模を縮小して体育館で行う予定。

委員長：参加団体数はどうなっているか。FC東京なども参加するのか。

事務局：昨年までの参加団体を基本に声かけをしている。地元企業やFC東京へも参加を呼びかけている。

委員長：それでは「区市町村ボランティア・市民活動センター運営委員会委員及びセンター長拡大会議」について報告をお願いしたい。

委員：このような機会は初めてだったが、勉強してみたく参加した。とても中身が豊富な会議で楽しんで参加できた。12月9日(金)10:00～16:30、飯田橋のセントラルプラザで開催された。会議は3部に分かれていた。第1部は「中間支援組織としてのボランティア・市民活動センターと人材育成について」立教大学の坂本先生の講演があった。中間支援組織とは何なのかからお話しがあったが、ボランティアセンターがその中間支援組織であることが分かった。行政は予算に限りがあり、一方市民は活動が活発になっている。市民からの様々なニーズが高まっているが、行政だけでは応えきれない状況にある。そのため、中間支援組織の働く場が多くなっているとのことだった。コーディネーターの役割が大きくなっている。ボランティアセンターの意味付けとして勉強になった。ボランティアセンターは、一人対一人のつなぎ役だと思っていたが、もうちょっと器が大きいように感じた。時代の新しい変化にどう対応していくか、ボランティアセンターがそこをどう担うかについて話しがあった。事例として、別市の市民センターでは、15地区に組み分けをして様々なニーズに対応している。多様化しているニーズや変化するニーズに対応するのは大変なこと。それを担っていく人材をどのように育てていくのかが大きな課題だと思う。第2部は、事例報告として2名の講師のお話しがあった。新宿の高校では、学校がボランティア活動を生徒にすすめ活動している例が報告された。高校生が様々な活動に参加していた。練馬区の中学校では、生徒向けに鎌倉の見学会をやりたいと考えていたが、ボランティア活動に取り組みせたらどうかという考えがあがり、実施に至った例が報告された。いろいろな形でボランティア参加があるため、コーディネートが大切になる。ボランティアセンターに勤める人間は、ある種資格が必要との話もあった。コーディネーター検定というものがあると伺った。第3部は、ワークショップで「ボランティアセンターの人材育成について」の話しがあった。ボランティアセンター自体は各市によって運営方法がまちまちであるとのこと。ものすごく忙しいし、事業の引き継ぎが難しいとの話もあった。運営委員会の存在などは、市民目線で事業をすすめている形で、とても良いと言われた。ニーズに応えるため、ボランティアセンターに何ができ

るのかを考えていた。果たすべき役割が何なのか考えていきたいと感じた。以上で報告を終わる。

委員長：「ボラセンって何ですか」と聞いてみるのは良いかもしれない。そもそも何をするとこ  
ろなのかを知ってもらうには面白いかもしれない。市民からは、良く分からない存在  
であるかもしれない。中間支援組織という言葉は良く出回るようになってきたが、ボ  
ランティアセンターの性格付けなども話し合うと良いかもしれない。

委員：西東京市における「ゆめこらぼ」と「ボランティアセンター」の違い、それぞれがめ  
ざすものが違うことなど、また、地域福祉コーディネーターとの役割の違いなど、い  
ったい、何ができなくて何ができるのか、もうちょっと整理してわかりやすくして伝  
えた方が良いと感じた。

事務局：そもそも社会福祉協議会自体が中間支援組織と言える。ボランティアセンターもゆめ  
こらぼも中間支援組織である。もともとボランティアセンターで持っていた市民活動  
やNPOに関する機能をゆめこらぼに移行させたものになっている。それまで、ボラ  
ンティアセンターでは、NPO法人を含めた市民活動団体を支援していたが、ゆめこ  
らぼができたため、市民活動に関する支援はゆめこらぼに、福祉分野の支援をボラン  
ティアセンターでと機能分けを行った。また、地域福祉コーディネーターとボランテ  
ィアセンター職員については、基本の仕事は何も変わらないと思う。課題解決のア  
プローチ方法に違いがあるだけではないか。地域にある問題を解決していく切り口の違  
いだと思う。本来は社会福祉協議会自体の取り組みとも言えるが、様々な部署に分け  
て手法を変えながら対応している。ある意味効率が悪いと言えるし、ピンポイントで  
効率的に解決しているともいえる。

委員：地域の問題にどのように対処するのかは関心がある。包括支援センターの機能を広げ  
ていきたいという理念を持っている。様々な問題を整理して、わかりやすくできない  
かと考えている。

委員長：今までは各部署が別々の対応でもうまくいくこともあったが、機能しなくなることが  
でてきた。問題が複雑化している。今までは行政がやってくれていたが、自分で何と  
かしようという人を紡いでいけると、市民力というものが生まれると思う。公共のサ  
ービスのしくみや、ボランティアの活動をお金に換算するとどのようになるのかなど、  
考えていけば良いと思う。課題はわかっているが手がない状態ではないか。地域に  
入るための入門講座などもやらないといけないのかなと感じている。気が付くと、地  
域に取り残されてしまう人が増えてしまうように思われる。

以上で報告を終える。

## 2. 審 議 事 項

(1). 第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>について  
事務局より、資料提示後、質問を受ける。

委員長：平成24年度予算については、現在どのように進んでいるか。

事務局：西東京市社会福祉協議会の予算は補助金の内示を含め、3月中旬までに事業計画案、

予算案がでる予定。

委員長：国や都の予算と関わるところはあるのか。

事務局：ボランティア・市民活動センターでは関連はない。

委員長：介護の世界は大変で、法律の改訂が行なわれる。ヘルパーの活動を45分単位にするため、デイサービスの開業時間が変わり、サービスの枠組みが変わる。そのため、予算も変わってくる。根拠は家族介護が大変なので、もっと長い時間、施設で預かることが提唱されている。職員配置も変わり大きな問題になっている。社会保障と税の改革論も行なわれているが、わかるようでなかなかわからない。西東京の中でも、高齢者については徹夜作業が始まるかもしれない

以上、質疑を行ない承認される。第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>を<確定稿>とする。

### 3. 協 議 事 項

委員長：前回の委員会の中で保育について議論が高まった。前回の議論から、課題について、どのように見ていくか、事務局から説明をお願いしたい。

事務局：係内で議論をしてきた。課題解決のために頑張っている人を応援・支援している。ボランティアの切り口で動いていて、対象は福祉的なものが多くなるが、これまでにボランティア活動の大変さについて議論されたと思う。係では、まず何がボランティア・市民活動センターの仕事として必要なかを改めて考えてみた。相談では、ボランティアの力を借りて解決してほしい方が相談に来ている。ボランティア・市民活動センターとして、依頼に対して、応えていくためにしっかり話を聞いていく。ボランティアがどういう活動がしたいかという思いをしっかり把握をする。やりたい活動がしっかり把握できれば、活動先を紹介できる。そうすれば、活動が大変だという思いが解決できる。その上で、大切にしていくことは「ボランティア・市民活動センターで情報をしっかり把握していく」「丁寧さが欠けていたかもしれないので、作業を見直していく」「安全面は考えていかななくてはいけない。危険なことは避けるが、何もかもダメではなく、安全を図りながら活動をすすめられるようにしていく」などが挙げられた。また、ボランティア・市民活動センターとして、ボランティアニーズに合わせた学習会を行ったり、不安のある方の話をよく聞く機会を増やしていく必要があると思われる。

委員：保育という活動の名称についてはどうか。

事務局：名称自体でこだわる必要はないと考えている。ニーズをしっかり聞いていけば問題はないかと思う。イメージとして保育園の保育と重ね合わせられるとスケールが合わないかもしれないが、事業の計画立てからの相談を受けることで、制限をするのではなく、長い保育時間の対応や場所のセッティングもうまく進められると思う。

事務局：保育ボランティアという名称ですすめるのか、おむつ交換やミルク授乳の扱いなど、まだ未検討の部分もある。活動の依頼について、スムーズに頼んでいける関係づくりをすすめるが、名称とは切り離して考えていきたい。

委員：活動に対する責任問題について。このところ、依頼者側のスタッフが、活動場所に入ってくれるのはとても良いと思った。また、依頼の時に、どのような子どもがいるのかについて、ボランティアに対しても情報をいただきたいと感じている。様々な要因で、子どもが他の子を傷つけに向かっていたことがあった。そのようなトラブルについても、ボランティアに責任があると考えれば活動が厳しいと感じる。

委員：情報をはっきり伝えてくれる方は少ない。どういうお子さんですかとも聞けないし、問題があっても伝えてくれないことが多い。

委員：今日活動が初めてという方がいた。子どもを見ていればいいんですねと言われた。活動に関する情報もしっかり伝えた方が良い。

委員長：依頼として「子どもの面倒をみてください」と言われることがあるのか。

事務局：そのような表現にこだわってはいないが、様々な言い方で依頼はある。お子さんの年齢にもよるが、個々のお子さんの状況が違う。どのようなお子さんが対象でも、依頼は受けているが、どのような活動を希望するのかは伺っている。子ども同士のけんかなどでは、親御さんごとで価値観が違うためマニュアルにするのは難しい。何でも伺える関係づくりが大切ということになる。

事務局：委員の話された例では、依頼する側がどういう団体かによって違うと思うが、夏体験ボランティアなどでは、受付を丁寧に行なっている。活動前に受入先でオリエンテーションを行なってもらったりしているが、日常のボランティア活動紹介では、やられていない。活動内容について依頼者に対して、事前にボランティアに対して説明をしてくださいと頼むのも一つのやり方だと思う。

委員長：何回も実施している依頼者なら、やってきたことの積み上げもあると思うが、初めて実施するところは経験がないので、アドバイスした方が良いと思う。

委員：もし子ども同士で傷つけてしまったら、保険での対応になるのか。その場合はボランティアの責任をどのように考えるのか。

委員：すべての怪我などは、ボランティアの注意不足で起きたということになるのか。

事務局：親御さんが裁判などに訴えるかどうかになる。子ども同士のぶつかりあいはずがあると思う。依頼者が把握をしておいてほしいと思うが、個人の保険もあるので、紹介はできる。

委員：依頼者側は分からないことが多いのではないかと。

委員長：難しい問題。あれもダメこれもダメになるので、いろいろな制限はしたくないが、中高生でも、自分の子どもは悪くない、見ていた先生が悪いと主張する親はいる。すぐに結論は出ないが、何でもボランティア・市民活動センターの役割となると、過度な不安を持たせることになってしまうのではないかと。安全面の確保のために、ある程度のルールはつくる必要がある。起こった件については、報告してもらい、その積み重ねで対応していくしかない。注意点を挙げていきながら形をつくっていけば良いと思う。

委員：初めて活動する人について。研修と現場は違う。初めは、先輩ボランティアと一緒に活動すると良い。人は見てまねて覚えるもの。初めての人は必ずノウハウを身につけてもらう仕組みは必要だと思う。様々な場面で学ばせる仕組みはつくれないか。

委員：先輩ボランティアには「〇〇さんは活動が初めてだからよろしくね」などと話しておく

良いかもしれない。

委員：それなら、初めての人でも安心かもしれない。

委員長：幾つかヒントが出たと思う。現場では起こったことに対して、解決いくことが必要になる。ボランティア同士のつながりをつくっていくことは大切。積み重ねが必要と思う。結論はなかなか出ませんが今後も検討を続けていきたい。  
本日はご苦勞様でした。

#### 4. そ の 他

##### (1).次回運営委員会開催日程について

次回の運営委員会の確認を行う。

日時：3月13日（火）18:30～20:30

会場：田無総合福祉センター 第3会議室

以上をもって、2011年度第5回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し散会する。